

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

10日目【2000年4月23日】

蘭州のバス〈蘭州〉前半

今朝7時頃、蘭州駅に到着した。人生初、寝台列車というものを経験した。乗る前は、どうやって寝るんだろうか、消灯時間はあるのか、他人のいびきが聞こえてこないか、色々考えていた。

私が乗った寝台列車は4人ずつの個室になっており、北京在住のビジネスマンの男性と同室だった。蘭州まで仕事で行くという話をしていたが、お互い疲れていたのか、直ぐに就寝した。

しかし、疲れているはずが、列車が駅で止まる度に目が覚めて、熟睡した感じは全く無し。同室のビジネスマンとは駅で、「ツイチェン（さようなら）」と言って別れた。

それにしても、不思議なことだ。普通に日本で生活していたら、このビジネスマンと会うところか、お互いの存在すら知り得なかったのに、出会って会話をした。なにかの『縁』なのでしょう。不思議だなあ（相手は思ってもみないでしょう）。



4人用個室になった寝台列車



蘭州駅



蘭州のホテル



仏教婦人会役員会の様子

仏教婦人会の役員の方々が、頼りにして下さる。いつも有り難うございます。

先日（四月二十日）、仏教婦人会役員会を、善教寺庫裏にて開催しました。忙しい中、各自の予定をやりくりして、出席して下さいました役員の方々が、一人と会えるのは嬉しい。「楽しみにしている」「学ぶことが多い」と、有り難い事を言ってくれました。

このように、仏教婦人会の役員の方々が、人と会うことの大切さ、触れ合うことの喜びを、口々に発して下さるのは、住職冥利に尽きる思いであります。

住職レター

以前のコロナ禍においては、人と距離を取るのには当たり前、ひどい時は、人と会うことが憚れていました。会社においては、オンラインミーティングが普通となり、飲み会はご法度でありました。コロナ禍の数年で、人と触れ合うことが少なくなったように思います。そのせいで、世の中の価値観が大きく変化しました。

お寺では、家族葬が普通となり、従来型の、近所や職場の方が参列する、一般葬は激減しました。葬儀後の、四十九日法要・一周忌の法事等々においても、少人数での法要が続きます。寺の本堂での各種法要も、参拝者が減りました。

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

10日目【2000年4月23日】
蘭州のバス〈蘭州〉後半

全37日間

今日も、事前に観光ガイドブックでチェックしていたホテルに、先ず行き着いた。蘭州駅を降りて、徒歩1分のところにあるホテルである。部屋に入って落ち着くと、眠気が襲ってきた。今寝てしまうと生活が逆転すると思い、熱いシャワーを浴びて、眠気を覚ました。お陰で時差ボケしないですみそうだ。

街を散策しに出かけてみた。甘粛省の省都であるここ蘭州は、西安より小奇麗な感じがした。タクラマカン砂漠に近付き、黄砂の影響で埃っぽい街かと思っていたが、宝鶏や天水とは比較にならない、近代的な都市であった。観光地ではなく二百万超の人口を擁する中国北西部最大の工業都市なので、その辺の事情もあるのか、今までの街とは雰囲気が違う。といっても、新興都市という訳ではなく、二千年の歴史を誇る古都でもある。

面白いものを見つけたので、デジカメに撮った(デジカメの画像データ消失)。こんなバス、日本には走っていないと思う。2台連結して、しかもパンタグラフらしいのが付いている。という事はガソリン必要ないのか、だったら環境にやさしいだろうと、街を見ていて、いろいろ考え巡らせてみた。

こちらの生活リズムに、徐々に慣れてきているように感じ始めた、今日この頃である。



ホテルのフロントスタッフ



蘭州の街



蘭州大学

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

五月十六日(金)

午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「初参式」(善教寺本堂)

五月十七日(土)

午前九時半〜 開式

読経・焼香・記念品贈呈・記念写真

*仏教婦人会主催行事

「安居会(夏の法要)」(善教寺本堂)

六月十四日(土)

午前十時〜 朝席

午後一時半〜 昼席

講師 堀靖史師

(東広島市志和町光源寺)



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp